

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	株式会社助太刀のオフィス訪問
調査日	2021年10月28日(木)14:00~15:30
調査先	株式会社助太刀 取締役 COO 林氏 広報担当 大塚氏
担当教員身分・氏名	木村剛准教授
授業科目/学部企画名	調査訪問(「企業訪問」)
参加学生数(学年)	1年生6人 2年生5人
調査趣旨・目的	株式会社助太刀に実際に勤務されている方から直接お話を聞くことで、実際の社会との接点を持つ。
調査結果	<p>この報告書では、10月28日に行われた株式会社助太刀のオフィス訪問について当日の流れとともに報告していく。株式会社助太刀は建設業界において職人さんと建設会社、建設現場とをマッチングするサービスを提供する会社である。</p> <p>まず、担当して下さったCOOの林氏と広報担当の大塚氏の自己紹介があった。ここでは林氏と大塚氏の株式会社助太刀に入社するまでの経緯を聞くことができた。その中で、特にキーワードとなったのが、コネクティングドッツという言葉だ。これはスティーブジョブスの言葉であり、意味としては過去や現在の経験(ドット)が思ってもみなかった形で結果、成功につながるというもの。また後述するが、学生のうちはドットとなるものを作れるように何かに打ち込むことが大切だと教えてくれた。</p> <p>次に、株式会社助太刀の企業と商品の説明があった。株式会社助太刀は2017年に設立され、建設業界の人手不足、職人さんへの待遇をIT化によって改善していくというミッションを持った企業である。具体的な商品としては職人さんと建設会社、建設現場をマッチングするアプリがある。このアプリの登録事業者数は16万事業者を突破している。この数字は業界内で高い評価を受けているポイントである。このアプリには職人さんに使ってもらえるように多くの工夫を見ることができる。例えば、シンプルで使いやすいデザインにすることや、初期段階ではラジオを通して宣伝していたことである。</p> <p>最後に、質疑応答の時間があった。ここでは、株式会社助太刀についてより理解を深めることができたと同時に、社会に出る上で大切なことも学ぶことができた。企業に関しては、コミュニケーションを非常に大切にしている点、マッチングのサービスはエリアを絞ることで成長させるということが基本であることなどを学ぶことができた。また、これから社会に出る我々学生に対して、学生は目的意識を持ち、コネクティングドッツのドットを作れるように好きなことに打ち込むということが大切であるということも教えてくださった。</p> <p>以上が株式会社助太刀の企業訪問に関する報告である。</p>

質問時間

